

# 皆さんの「声」を聞かせてください！

## 拡大版 / D チーム

3/8 (土) に行われた、多世代が参加した町民インタビューのレポートの 4 回目です。「多世代交流がない」という関心が多世代にあることが分かったと同時に、解決に向けたアイデアも出され、有意義な話し合いとなりました。



参加者  
10代 10代 40代

中山町には四季がある！

自然が豊か

学校から見える景色がきれい

給食に旬の食材が使われている

風景がきれいなところはこれからも大切にしていきたい



当たり前すぎて「魅力」として発信されていないのでは？  
もったいない！

ほんわ館は多世代が利用中！

本がたくさんあって利用しやすい

学習室は集中できるので、勉強がはかどる

学習室は、学生だけでなく、大人も利用している

閉館が早いのが難点

放課後に利用しにくい

遅くまで勉強できる場所がほしい

閉館時間を延長して、イベントをやったら面白そう！学校帰りに友だちと立ち寄ることができたらいいなあ...



開館時間を工夫するだけで、さまざまなアクティビティが生まれそう！

中山町は多世代が交流する機会が少ない

幅広い世代でのコミュニケーションが不足している

イベントに対する関心が低いのかも？

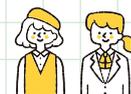
SNS の使用の有無で情報格差が生じていると感じる



世代が固定されているイベントが多い印象

開催情報を知らないだけかもしれない

若者も多世代交流に興味あり！  
自分たちで企画して、取り組んでいきたい！



子どもたちへの読み聞かせイベントを企画してみたい

ゴミ拾いと危険箇所点検を組み合わせれば、多世代が集まる機会を作れそう！

課題解決に向けた取り組みに

町民が企画段階から

関わることができると面白そう！

## 1 暮らしの中で四季が感じられる

中山町を評価する意見として多く挙げられたのは、食べ物やイベント等、暮らしながらに「四季が感じられる」という点です。例えば、町内の小中学校で提供されている給食には地元産の旬の野菜が使われており、他校から赴任した先生方が驚くほどに「おいしい!」という点は、世代を越えて共有されている話題でした。また、

自然の豊かさを評価する声も共通しており、「この景色をずっと大切にしていきたい」という意見も出ました。

「四季が感じられる」という点が多世代にとって高評価であることを踏まえた「魅力づくり」と「外部への発信」も必要であると考えます。

## 2 ほんわ館は多世代が利用中!

町内にある公共施設の中では、ほんわ館が多世代に利用されていることが分かりました。図書コーナーだけでなく、学習室も併設されており、「集中できるので勉強がはかどる」「落ち着いた雰囲気ですごく過ごしやすい」として、平日は中高生が、休日になると大人も学習室を利用している様子がみられるそうです。

ただし、学生や働いている世代にとっては、

「19 時閉館」が大きなハードルとしてあるようです。「高校生は町外から帰ってくるので、勉強のために 21 時まで開館してほしい」「夜間イベントがあれば、これまでとは違う利用層を開拓できるのでは?」という意見が出されました。「夜間イベントがあれば、そこに立ち寄りながら友だちと話すこともできる」と、中高生の放課後の居場所にもなりそうです。

## 3 世代間のコミュニケーションが希薄

「多世代が交流する機会が少ない」「参加する年齢層が限定されているイベントが多い印象を受ける」等、町内において世代の異なる町民とコミュニケーションを図る機会が少ないという声が複数上がりました。

多世代交流に関心のある中高生からは、「大人が企画するだけでなく、自分たちが主体的に取り組むイベントやボランティアがあってもいいのでは!？」という意見が出され、中学生が子

どもに読み聞かせを行うイベント案も提示されて盛り上がりました!他にも、「生活道路におけるゴミ問題の解決」と「町民の防災意識向上」を掛け合わせた「ゴミ拾い × 危険箇所点検」イベントの開催が世代間交流を促進するのではないかという意見も出ました。こうした解決に向けたアイデアを町民が企画段階から関わることでできると面白そうです!

公共施設再配置計画については、その必要性が「第 6 次中山町総合発展計画」にて説明されています。以下 URL または、右記コードよりご確認ください。

©中山町「第 6 次中山町総合発展計画を策定しました」

<https://www.town.nakayama.yamagata.jp/soshiki/seisaku/machidukurisuishin/214.html>



【主催】中山町総務広報課防災安全対策室（中山町大字長崎 120 番地 / 電話：023-662-4899）

【制作】東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 田澤ゼミ

〈2025 年 7 月発行〉